

■活動レポート

■学芸員室より 調査研究成果の公表とその意味 女鹿潤哉（主任専門学芸員）

昨年度末に、私は9年間の調査研究の成果に基づいて、『「えみし」社会の成立とその系統的位置付け』[岩手県立博物館調査研究報告書第18冊]として編集・刊行することができました。本誌上では、しばしば学芸員の仕事について紹介してきていますが、今回は、こうした調査研究成果の公表の意味についてご紹介します。

古代の我が国は、当初、中国などの東アジアの国々から倭国などと呼ばれ、7世紀後半に律令制に基づく国をつくりあげて日本を名のようになります。古代日本の歴史書などによれば、当時の東北地方北半から北海道南西部にわたる地域にはエミシ・エビスなどと呼ばれ、「蝦夷」などと記された人々（以下、「えみし」と書きます）が住んでいたとされます。

東北半から道南西部にわたる地域は、似通った自然条件を背景として、縄文時代早期から古代まで、密接な関係を保ち、相通じあう文化がみとめられます。報告書では、「えみし」社会は、そうした地域性のもとで、

およそ4世紀前半（700年程前）に誕生したことを述べました。

そして、「えみし」社会が成立する背景には、やがて北海道を中心としてアイヌ民族を誕生させる動きがかかわっていた可能性についてもふれています。

7世紀後半の「えみし」社会
（上記報告書より）

こうした調査・研究から、岩手県を始めとする北東北は、原始・古代を通じて一連の社会を形作ってきたように思えます。私たちは、今後とも、県民の皆様方に、新しい歴史の視点をご紹介することにつとめてまいります。そして、21世紀新時代の岩手県、そして北東北に生きる者としての一体感と地域への愛着をはぐくむために微力をつくすことは、当館の使命でもあると考えています。

■新任者と転出・退職者

当館では、平成16年度の人事異動等により、9名の職員が転出・退職し、新たに6名の新任者を迎えました。次に新任者を紹介します。

新任者氏名

①現職 ②前職 ③抱負など

佐々木 勝（ささき・まさる）

- ①学芸部長
- ②財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査第一課長
- ③大きな変革期を迎え、変容を余儀なくされる博物館活動が、正確なルールの上を歩めるよう努力していきたいと思っております。

清枝 純一（きよえ・じゅんいち）

- ①次長兼管理課長
- ②保健福祉部地域福祉課監査指導監
- ③県立博物館がより広く県民から愛されるよう、微力ながら、関係の皆様方と力を合わせてがんばりたいと思っております。

舟山 晋（ふなやま・すすむ）

- ①主任専門学芸調査員（民俗）

- ②岩手県立大船渡高等学校教諭
- ③岩手県の新指定文化財（民俗分野）の研究担当です。また、岩手県内と他地域の比較民俗学に関心があります。

窪田 大介（くぼた・だいすけ）

- ①学芸調査員（民俗）
- ②岩手県立盛岡商業高等学校教諭
- ③岩手の人々が厳しい自然や社会の中であぐんで来た豊かな民俗文化を後世に残す仕事のお手伝いをしたいと思っています。

佐々木 整（ささき・ひとし）

- ①学芸調査員（文化財科学）
- ②岩手県立山田高等学校教諭
- ③4月に着任したばかりです。博物館資料の成分分析、科学的保存について研究、実践してまいりたいと思っております。

水車 淳子（すいしゃ・じゅんこ）

- ①解説員
- ③分かり易く、親しみやすい解説で、皆さんと一緒に「なぜ？どうして？」と考えていきたいと思っております。

また、転出・退職者は次のとおりです。
高橋信雄（前学芸部長・退職）／高橋清助（前次長・退職）／阿部幹男（前学芸第二課長・岩手県立青山養護学校教頭へ）／菅原正明（前管理課長・黒沢尻北高等学校事務長へ）／咲山まどか（前主任専門学芸調査員・岩手県立盛岡第四高等学校教諭へ）／瀬川修（前学芸調査員・平泉町立平泉中学校教諭へ）／伊藤久夫（前技術副主幹・退職）／荒井晃子（解説員・退職）／牧秋穂（解説員・退職）

